

葛飾区の断熱改修を都議団が視察

葛飾区で実証的に行われている学校の断熱改修は、都内でも先進的・意欲的な取り組みです。党都議団は和泉都議とともに区からヒアリングを行い、改修が行われた清和小学校を視察しました。区議団からは、木村ひでこ区議が参加しました。



葛飾区の取り組み

葛飾区は、2050年までにCO2排出ゼロを目指す「ゼロエミッションかつしかな」を2020年2月に宣言しました。それに伴い、新築や改築だけでなく、改修についても、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略）の検討を進め、断熱改修が行われた清和小学校の教室では、窓や天井、廊下側の壁や、梁などの断熱とともに全熱交換器が2台設置されています。断熱なしの教室よりも1時間早く適正温度（27℃）に

職員学習会が大きな力に

ゼロエミッションかつしか宣言後、職員によるZEB学習を昨年10月までに10回行い、調査や視察、専門家など外部講師による講義などによって、気候の危機的状況、外国の取り組みや国内の先進事例などの知識

地元事業者の仕事おこしにも

さらに、改修に当たっては地元の事業者が発注が行われていることも重要です。公共施設の新築・改築の時だけでなく、既存の施設でも断熱改修を進める事

東京都は目標にふさわしい取り組み

一方で、東京都では2019年に「ゼロエミッション東京戦略」を発表し、2050年までにCO2排出ゼロをめざし、2030年までに50%削減するという目標を立てていますが、2022年までに、なんと

都議会第3回定例会が9月18日開会

小池都政を厳しく問う

都知事選後、最初の議会となる第3回定例会が、9月18日から始まります。

都知事選で批判された「声を聞かない政治」

都知事選挙では、神宮外苑再開発や、プロジェクトマンションピンゲ、築地跡地開発等々、小池都知事の下で進められてきた、都民不在・財界ファーストの政治に多くの批判が広がりました。

ますますあらわになる危険な本質

3期目に入った小池都知事は、9月1日に開催が予定されて

る事を位置づけた点は重要です。

断熱改修が行われた清和

小学校の教室では、窓や天

井、廊下側の壁や、梁など

の断熱とともに全熱交換器

が2台設置されています。

断熱なしの教室よりも1時

間早く適正温度（27℃）に

門家など外部講師による講

義などによって、気候の危

機の状況、外国の取り組みや

国内の先進事例などの知識

す。公共施設の

の時だけでなく、既存の施

設でも断熱改修を進める事

対象です。

ますます、

「都民の暮ら

しに無関心」

「都民の声を

聞かない」小池

都政の危険な本質があら

わになっています。

知事が選挙中に掲げた

公約の中には、都民の要

求を意識したものが、党都

議団が求めてきたものが

いくつもありません。選挙

の時だけの「リップサー

ビス」に終わらせること

なく、都民の願いに沿っ

て実現させるために、幹

事長に再任された和泉都

議を先頭に、党都議団は

全力で頑張ります。

を共有し、深めてきまし

た。こうした積み重ねも、

大きな推進力になってい



窓の断熱

なり、そこまでの空調消費エネルギー量は、断熱なしの教室と比較すると55%も差が出ました。



るようです。



は、地域経済の活性化につながる事が期待されます。



4.4%しか削減できていません。再開発によって莫大なCO2を排出する超高層ビルの建設が急速に進む中で、葛飾区のような断熱改修の先進的な取り組みに対する補助はありません。日本共産党都議団は、吉良よし子事務所との協働で6月に発表した「東京2030 60%脱炭素 実行プラン ver.1.0」（都議団ホームページ）に基づき、東京都に対して急速に対策を強化することを求めています。

日本共産党 都議会議員
和泉なおみの
 さわやかレポート
 発行 和泉なおみ事務所
 葛飾区東立石 3-25-8
 TEL 5671-0850
 FAX 5671-0851
 NO.96
 2024.9